94 美々津橋

みみつばし

ＪＲ日豊本線日向市から南に13km、３つ目の駅が美々津である。ピンクに塗られた跨線橋、駅名看板も観光地にふさわしく立っているが、この駅は無人駅。がらんとした待合室は壁も傷み、真夏でも海からの風もあり、気分的にはひんやり寒々としている。何もない広い駅前広場の向かい側の自動販売機から、列車を待つ女の子が缶ジュースなど買ってくる。不意に列車進入の女性アナの案内にうたた寝から覚める。列車がくると自動的にスイッチが入るのであろう。スピーカーから流れる場違いな声にはっと驚く静かな駅である。

美々津は江戸時代から明治にかけて、宮崎・日向から京阪神との経済・文化交流の拠点として栄えた町で、京格子や通り庭風の土間などに代表される京・大阪の町家造りを取り入れた町並みが今もその面影を残している。

町の北で耳川が海に注いでいるが、そのあたりは古く神武天皇御東征のおりの船出の地と伝えられ、その航路といわれている沖合の二つの島の間は、今でも漁船は通らないという。船出してももどらないということからである。河口には紀元2600年（1940）奉祝の際建てられた立派な石造りの塔がたち、それには「日本海軍発祥之地」と刻まれている。終戦後その文字は埋められたが、日米講和条約締結後に復元されている。川岸の立磐神社の境内には、「神武天皇御腰かけ岩」というのもある。神話の世界に入り込んだ心地がする。

日豊本線で美々津駅に着く手前で下り列車は耳川を渡る。川を渡る鉄橋は、川中の大きな中の島の両側は新しいトラス橋だが、島の上は桁橋で、遮るもののないその上から上流に白く塗られたブレースドリブアーチが２径間続いて架かっているのが見える。昭和９年（1934）に架けられた美々津橋である。設計は多くの橋の設計にかかわった増田淳によるものである。

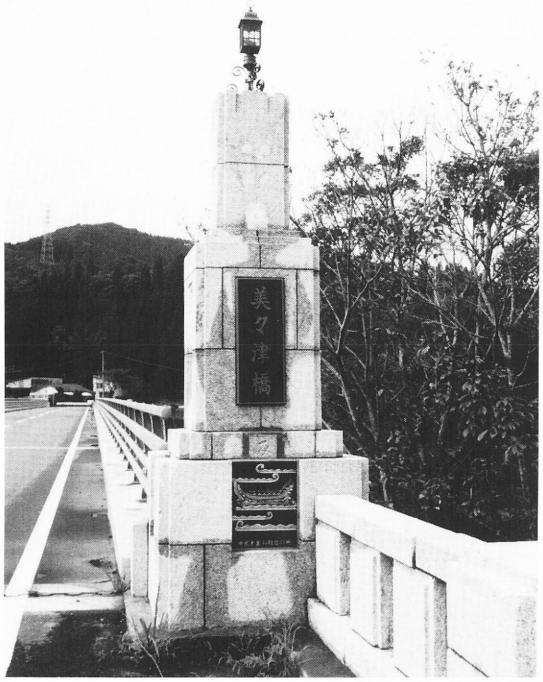
その道はもと国道であったが、いまは県道となり、現在の国道は線路より東側に移り、美々津大橋は河口近くにＰＣ連続桁で架けられている。

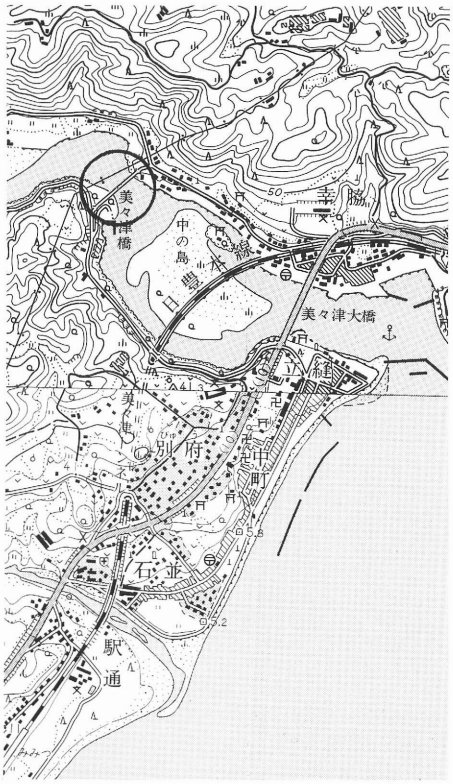
平成２年３月に床組など大がかりな修理がなされ、両側の桁橋も新しく作り替えられた。橋の親柱と袖高欄はその翌年に元のものを高圧水で綺麗に磨き、その根元には神武天皇船出の姿や古く伝わる「ひょっとこ踊り」の振りが嵌（は）め込まれている。なお、親柱には補修時の年月が刻まれているのは、将来誤解を招く恐れがあると思う。

一方、美々津には21世紀の交通革新を目指すＪＲの浮上式リニアモーターカーの実験線があることで知られている。古代日本の船出の地から、再び新しい技術の船出が始まろうとしている。〔ＴＪ〕

竣工年月：昭和９年（1934）９月
所在地：宮崎県日向市美々津町
河川名：耳川
橋長・幅員：168.668m×7.5m
径間数・支間長：１×17.834m＋２×64.4m＋１×17.834m
形　式：スパンドレルブレースドアーチ

〈1992年8月，撮影・共に田島二郎〉





（1:25,000　山陰，都農）